



校長室だより

校長 山崎 聡子

心に火を灯す

6月7日(水)に座間市内の小学校の教職員の学びの場として研究会が開かれました。教職員は、座間市小学校教育研究会の会員として、国語・社会・算数・理科・生活・音楽・図工・体育・家庭・外国語・総合的な学習・道徳・特別活動・特別支援教育・図書館・視聴覚・安全・養護・給食・事務の20部会のいずれかに所属し、市内11校の会員が集まり、原則年間5回の部会をもち、研究を進めています。今回開かれたのは、通常行っている部会とは異なる研究会です。研究会は毎年行っており、6月は、11部会が研究会を開催しました。今回開催にあたっていない部会の会員は、開催された部会の研究会のいずれかに参加して学びます。10月には、残りの8部会、8月に特別支援教育部が研究会を開く予定となっています。

研究会では、講師をお招きし、御講演をいただくことが多くあります。今回私は、総合的な学習部の研究会に参加しました。座間市教育委員の有山周一先生が講師としてお越しくださいました。有山先生は、座間市の教員として御活躍後、東原小学校の校長として座間市の教育発展に御尽力なさり、現職に就任されております。今回「子供の興味に寄り添った総合的な学習」というテーマでお話をいただきました。その中で、種子島の鉄砲館に来館した際のお話を伺いました。種子島の鉄砲館では、「キッズ コンシェルジュ」として、夏休みに来館した方への案内、展示品等の説明を市内の小学生が行うという企画があり、案内をしてもらったとのことでした。説

明を聴きながら、小学生であることを忘れてしまうくらい、上手な案内であったとのことでした。種子島まで観光に来ている方や入館料を払ってでも内容を知りたいという思いをもって来館しているという相手のことを考えた上での取組には、真似事ではない、真剣さがそこに生まれるという話でした。

また、子供がふと発した言葉をキャッチして有山先生が追求なさった話にも引き込まれました。「一つ目小僧のお墓が座間市にあるんだよ」という子供の言葉を聴き、事実を確かめるために地域の方に取材し、それは真実であったということに行き着いたという話でした。地域の中には、子供たちへの学びを深めていく貴重な材が多くあることも教えていただきました。

研究会を通して、「本物」に触れる・関わる・体験することが子供たちを育てていく上で重要であるという視点をいただき、参加者にとって大きな学びとなったことと思います。

子供たちは、自分を取り巻く「人・もの・こと」について様々な興味・関心を抱いていると日々感じています。その中から、子供たちが真剣に向き合い、追究することができる教育的価値のあるものは何かを見出して、学習活動を整えていくことの大切さに、私自身も立ち返る貴重な時間となりました。

研究会後、有山先生が3年もの時間を費やして生み出されたという「どろだんご」を一ついただきました。ボーリングの玉のような「どろだんご」は校長室にあります。子供たちが目を輝かせながら何人も見に来ます。子供の目の輝きからどんな動きが生まれるのか温かく見守っていきたいと思っています。